

平成 29 年度（2017 年度）国際交流推進協議会全体研修会 記録

日 時 平成 30 年(2018 年)2 月 13 日(火)13:30-16:30

場 所 滋賀県危機管理センター

参加者 26 人（うち、事務局 4 人）

1. 滋賀県危機管理センター講義・館内見学 講師：竹中氏

①海溝型地震

南海トラフが起これば、津波は 5 分で着岸。

食糧は 1 週間程度届かなくなる。

②内陸型地震

ひび割れ＝活断層 直下型

海溝型地震のエネルギーの 1000 分の一だが、被害は海溝型よりも大きくなる。



滋賀県は断層が多い県、大規模地震が起こる可能性の大きい県という認識を持っておくことが重要。また災害時には、普段便利なものが不便なものとなることを理解しておく必要がある。 例】水洗トイレ 下水は流れなくなる

電気・ガスのない暮らしを想像しておく必要がある。

ネットでは、ダンボールで作れるトイレの作り方などの紹介もあるので参考にされるとよいだろう。

その後、館内見学。



2. ワークショップ形式研修

「災害疑似体験ゲーム ～クロスロードから考える外国人住民対応～」

講師：神戸クロスロード研究会代表理事 濱 尚美 氏

- 阪神淡路大震災が起こった当時、神戸市の職員だった。自分たちの被災体験を伝えることで、今後起こりうるであろう災害時において被害を少なくすることにつなげたいと、市職員有志が「神戸クロスロード研究会」を立ち上げた。
- 文科省の「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として、40 職種に及ぶ市職員が発災時にどのような状況におかれ、どのような判断をし、どのように行動したかについてインタビューを受けた。このインタビューから集められた事例を基に、教材化することとなった。

- 発災時には、54カ所で同時に火災が起こり、120回線ある消防の電話がパンクしてしまった。また、土木系などインフラに関する部署が入っていた神戸市庁舎6階はへしやげてしまい、強度不足のため建物への立ち入りが禁止され、復旧作業に必要な資料を取り出すところから困難を極めた。それほどの混乱状態だった。
- 「クロスロード」とは、十字路・交差点という意味。重大な分かれ道、人生の岐路であり、また人と人が出会う場所、活動する場所ともなっている。当時を振り返り、各場面で自分が選択したことは正しかったと思う一方で、今ならもっと良い選択ができたかもしれないという反省や改善案も思い浮つくので、こうした経験が他の地域での学びにつながることを期待して教材化した。
- ゲームでは、さまざまな立場が設定され、選択が迫られる状況が提示される。そのとき、自分であればどのような選択をするかを YES か NO と書かれたカードで意思表示する。グループのなかでは、参加者が選択した理由について発表し、意見交換を行った。

設問例1) あなたは「被災者」

自宅は半壊状態。家族そろって避難所に行くことになったが、用意していた常用持出袋を、水や食料を持たない家族も大勢いる中であけるかどうか？

【講師のコメント】

各避難所に備蓄されている水や食料は最小限。関西圏が被災すると、石油コンビナートが多く所在していることから、全国でガソリン不足が起こり、物流も止まると考えられている。また、東海トラフ沖の地震となれば、国が最優先で支援するのは、高知県・和歌山県・静岡県等の湾岸県となるので、滋賀県は自助努力が必要となる。つまり、基本的には住民自身が責任を持って備えておく必要があるということ。



設問例2) あなたは「川沿いの集落の住民」

深夜12時に避難勧告が出た。お年寄りや子どもを連れて、避難所へ行くか？

[YES 行く・NO 行かない]

→ <YES と答えた理由>

- ・ 自分の国では、水害はあっという間に被害を受けることがあるので、いち早く避難することが必要だと感じている（外国出身の参加者より）

【講師のコメント】

自治体によっては、避難情報を出すタイミングは迷うところ。避難情報を待つのではなく、自分の判断で避難を開始することが重要。

設問例3) あなたは「外国人被災者」

地震から4日経ち、日本人の夫と子どもと避難所で過ごしていた。避難所では同国の人たちへの通訳として協力を求められているが、ようやく自宅に戻れる状況になった。自宅へ戻るか？〔YES 自宅に戻る・NO 避難所で通訳として協力を続ける〕

→ <YES と答えた理由>YES

- ・ ボランティアも疲弊してくる頃。まずは、一旦しっかり休むことが必要。
- ・ 5日目となると、外部からの支援も届きだす頃だと思う。
- ・ 他の避難所にも、通訳を必要としているところがあるかもしれないから。

<NO と答えた理由>

- ・ 日本人配偶者として、地域とのつながりのあるキーパーソンなので、できるだけ協力したいと思う。

設問例4) あなたは「外国人被災者」

自宅は半壊状態。同国の友人宅にのがれたが、食糧などもなくなってきた。同僚の日本人から「避難所」というところに行くよう言われたが、よくわからない。避難所に行くか？〔YES 行く・NO 行かない〕

→ <YES と答えた理由>

- ・ 食料なども得るため、命をつなぐために行く

<NO と答えた理由>

- ・ 言葉も通じない、知らないところへは不安なので行かない。遠くても言葉の通じる友人の人脈をたどって、ひたすら避難すると思う。



ゲームという気楽な雰囲気の中で話しやすい場となっていた。少数派の意見のなかにも、参考となるものがたくさん含まれていて、参加者の立場や経験、価値観などをグループで共有することで、ともに災害に備える意識の向上につながるワークショップだった。

最後に講師から、『『防災は行動』と言われている。知ったならば、実際に行動に移すことが重要ということ。早速今日の帰りに、災害グッズや非常食を買って帰るなどの行動に移してもらえることを期待する。』と締めくくられた。